琉球・沖縄 年中行事 なんでも？！Q&A

離婚したのに、前の旦那のトートーメー？

●Answer
沖縄市・コザ山 球陽寺（きゅうようじ） 前住職（ぜんじゅうしょく）
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 母の知人のおばさんから「あなたの娘は、離婚した前のダンナの長男を産んでいるから、亡くなっても今のダンナのトートーメーには入れないよ～。前のダンナのトートーメーでないと、子供達が大変なことになるよ～」と母へ助言があったそうです。このことを聞いた母は、そうしないと祟りがあると電話してきました。私の主人と子供は大反対です。長男を引き取った前の旦那も再婚しているので、私と一緒は困ると思います。私は、主人と同じトートーメーだと思っていたのに……、沖縄のしきたりが悲しいです（金武町・Iさん・50代・女性）

A このお話を最初に聞いたお母さんをはじめ、みなさんビックリしたことでしょうね。沖縄式位牌のトートーメーには、一般的に、親（父）を基準とする考え方と子（長男）を基準とする考え方がありますので、少し詳しく説明していきましょう。

親を基準とするトートーメー

トートーメーには、親を基準とする考え方があります。具体的には、親の上座にその祖父、その上座に曾祖父の位牌札を配列することで、一代目・二代目・三代目というチーシジ（血筋）やヤーシジ（家筋）の家系を敬うといった考え方です。

この考え方は、2段式のトートーメーを例にしますと、親の真下にその妻（母）の位牌札を配列することもあり、その家庭の家族構成が一目瞭然となる長所がありますので、一般的なトートーメーの位牌札の配列で多用する傾向にあります。

子を基準とするトートーメー

また、一方で子を基準とする考え方もあります。具体的には、子は親のトートーメーを継承することが望ましいということから、両親である父親と母親の位牌札を敬うといった考え方です。

これは、両親の婚姻関係の継続が前提ですので、離婚した女性に対して、お母さんの知人のおばさんのようなアドバイスをいただくことがあるといいます。

イチミ（この世）とグソー（あの世）で異なる離婚観

このアドバイスの根底にあるのは、「イチミでは夫婦のご縁がなくても、両親のグソーの供養を行うのは子。その子からすれば、父親と母親に違いはないので、子が敬う同じトートーメーに両親をウンチケー（案内）することが望ましい」という考え方です。

つまり、イチミでは離婚していても、グソーでは必ずしもそうではないということになるのでしょうか。

今の時代、この考え方は女性にとっては大変な問題とのご指摘も然りだとも思いますが、実際、このような現状があるということなのでしょう。

一方、沖縄のしきたりの古き事例から紐解いてみますと、ニービチ（根引き＝結婚）して苗字が嫁ぎ先に変わった女性は、離婚後であっても復姓しない限り苗字が異なるので、実家のトートーメーには入れないという考え方があるといいます。

この考え方にこだわりますと、前のご主人のトートーメーには入れない、実家のトートーメーにも入れない、結果的に女性が無縁仏になることも否定できません。このようなことを未然に防ぐという敬いの観点から、とある地域では、前のご主人のトートーメーにウンチケーしていたという事例もあったとのことです。

今の家庭の幸せが最優先

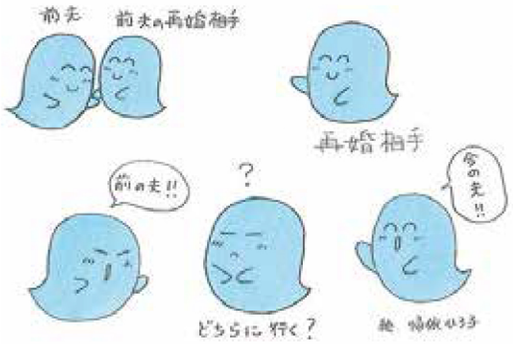
今回のケースでは、双方すでに新しい家庭の良縁に恵まれていますよね。みなさん、それぞれのトートーメーを大切にして、その家庭の幸せを最優先したい思いは同じでしょう。

このアドバイスには感謝して、もちろん、前のご主人のトートーメーに入ることはありませんのでご安心ください。

しきたりというものは、個々の判断に迷うときに役立つもの

しきたりというものは、個々の判断に迷うときに役立つものといった格言を耳にしたことがあります。

ご心配されているお母さんには「ミートゥンダーヤ カーミヌ チビティーチ（夫婦は甕の尻一つ〝骨壺でも一緒〟）」の応用として「ミートゥンダーヤ トートーメーヌ チビティーチ（夫婦は位牌の尻一つ〝位牌でも一緒〟）」、夫婦として、「今のご主人と一緒の人生を歩みます」と、ありがとうの感謝の言葉とともに優しくお伝えいただければと思います。



帰依 龍照 1968年岡山県出身（50歳）／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式（地鎮祭）を担当しつつ、団体・企業・学校にて『琉球・沖縄の年中行事・葬式・法事』に関する、進学・就職・いのちの講演活動を行う
ホームページ：http://www.kozazankyuyoji.com/　ブログ：http://ameblo.jp/kozazankyuyoji

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q＆A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。